

災害から身を守る～大切な人と共に～

7月に全国で起きた水害・土砂災害。これからもっと多くの災害が起こることは間違いないと考えられます。9月～10月には台風が多く発生し、地震はいつ起きてもおかしくはないのです。災害とは起こったときに行動しても遅く、いつ、どこで起きるか分からないのからこそ恐ろしいのです。自分自身そして大切な人を守るためにも災害の備えが重要になってきます。

土砂災害から身を守る

がけ崩れや土石流、地すべりなどによる土砂災害は、すさまじい破壊力をもつ土砂が、一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪ってしまう恐ろしい災害です。台風や大雨、地震などの多い日本では、その地形的・気象的な条件によって、土砂災害が発生しやすい国土環境にあります。



土砂災害から身を守るための3つのポイント!!

土砂災害から身を守るためには、一人一人が土砂災害に対して日頃から備えておくことが重要です。

住んでいる地域が「土砂災害警戒区域」かどうか確認する

土砂災害の恐れのある地区は「土砂災害警戒区域」や「土砂災害危険箇所」とされています。普段から自分の家がこれらの土砂災害の恐れのある地域かどうか、都道府県や国土交通省砂防部のHPなどで確認しましょう。

雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意

土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生危険度が高まったときに、市町村が避難勧告などを発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。大雨による電波障害や停電など、いざという時のために携帯ラジオを持っていると安心です。

警戒レベル4で全員避難

土砂災害警戒情報が発表されたら、家族・親戚や地域内の方々に声をかけあい、早めに近くの避難場所など、安全な場所に避難をしましょう。夜中に大雨が予想される場合には、暗くなる前に避難することがより安全です。土砂災害の多くは木造の1階で被災しています。どうしても避難場所への避難が困難なときは、事前の策として、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は家の中でより安全な場所(がけから離れた部屋や2階など)に避難しましょう。

安全な場所に
避難しましょう



●土砂災害の前兆現象にも注意

がけ崩れ

特徴: 斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象。崩れ落ちるまでの時間がごく短いため、人家の近くでは逃げ遅れも発生し、人命を奪うことが多い。

主な前兆現象: がけにひび割れができる・小石がパラパラと落ちてくる・がけから水が湧き出る・湧き水が止まる・濁る・地鳴りがする

地すべり

特徴: 斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。土塊の移動量が大きいため甚大な被害が発生。

主な前兆現象: 地面がひび割れ・陥没・がけや斜面から水が噴き出す・井戸や沢の水が濁る・地鳴り・山鳴りがする・樹木が傾く・亀裂や段差が発生

土石流

特徴: 山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまうことも。

主な前兆現象: 山鳴りがする・急に川の水が濁り、流木が混ざり始める・腐った土の匂いがする・降雨が続くのに川の水位が下がる・立木が裂ける音や石がぶつかり合う音が聞こえる

地震から身を守る

地震はいつどこで発生するか分かりませんが、気象庁の「緊急地震速報」を活用することによって、強い揺れが来ることを直前にキャッチし、身の安全を守る行動をとることができます。緊急地震速報は震度5以上が予想されたときに発表され、テレビやラジオ、携帯電話、市町村の防災無線などを通じて報知されます。緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまで数秒から数十秒のわずかな時間しかありません。すぐに周りの人に地震が来ることを知らせ、慌てずに身の安全を確保するようにしましょう。



家・外出先の時に地震が起こったらとるべき行動とは？

● 家の中

座布団などで頭を保護し、大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れましょう。慌てず落ち着いて行動する。

● 自動車運転中

慌ててスピードを落とさず、ハザードランプを点灯させながら徐行し、周りの車に注意を促す。周囲の状況を確認して道路左側に停車する。エンジンを止め揺れが収まるまで車内で待ち、揺れが収まったらドアをロックせずキーを付けたまま車外に出て、安全な場所に避難する。

● エレベーター

最寄りの階で停止させ、速やかにエレベーターから降りるようにする。

非常時の持ち出し品を事前に準備する

大災害が発生したときには、電気やガス、水道、通信などのライフラインが止まってしまう可能性があります。ライフラインが止まっても自力で生活できるよう、普段から飲料水や非常食などを備蓄しておくことが大切です。

災害が発生し、自宅が危険な場合は、避難所など安全な場所に避難することが重要です。場合によっては、そこで避難生活を送ることになります。避難所生活に必要なもの(非常用持ち出し品)をリュックサックに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるように備えておきましょう。

飲料・食料品

飲料水、カップめん、缶詰、ビスケット、チョコレートなど



貴重品：

預金通帳、印鑑、現金、健康保険証など



救急用品

ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など
ヘルメット、防災ずきん



その他、マスク、軍手、懐中電灯、衣類、下着、毛布、タオル、携帯ラジオ、予備電池、使い捨てカイロ、ウェットティッシュ、洗面用具など

安否情報の確認方法を家族で決めておく

家族がそれぞれ別々の場所にいるときに、災害が発生したときには、お互いの安否を確認できるように、日頃から安否確認の方法や集合場所などを家族で話し合っておきましょう。家族みんなが携帯電話を持っている場合でも、災害時は回線がつながりにくくなるため、連絡がとれない場合があります。安否確認には、「災害用伝言ダイヤル(171)」や携帯電話のインターネットサービスを利用した「災害用伝言板」などのサービスを利用しましょう。

坂祝町防災ガイドマップ

先日の自治会配布で各ご家庭に配布した坂祝町防災ガイドマップも確認をお願いします。ガイドマップには洪水災害・土砂災害・地震災害の避難のころえや備え方、災害に備えて準備しておくものなどが詳しく書かれています。こちらも参考にしながら行動していきましょう。

